

地域まちづくり シンポジウム企画案

1 目的

- ・ 検討会議での議論をベースにテーマを絞り、まちづくりの現場において求められているニーズを拾い上げ、支援スキームに反映させる。
- ・ 現在、先進的に展開されている具体の取組事例や、今後の新たな展開の可能性等を示すことにより、市民の関心を喚起し、活動の醸成につなげる。

2 開催概要

日 時 平成31年2月3日（日） 14時～16時15分（予定）
会 場 キャンパスプラザ京都
タイトル 地域まちづくりシンポジウム 「京都がつむぐ これからのまちづくり」

3 構成案

1) 開会挨拶（5分） 14：00～14：05

鈴木章一郎都市計画局長

2) はじめに（趣旨説明）（15分） 14：05～14：20

高田光雄氏（京都美術工芸大学教授，京都大学名誉教授，地域まちづくり制度検討会議座長）

3) テーマ別パネルディスカッション（50分×2）

14：25～15：15， 15：20～16：10

テーマ1 新たなまちづくりの担い手
～京都の強み‘地域力’にプラスの風を吹き込む～

- ・ 昨今，新たなセクターがまちづくりに関わるケースも増えつつある。
- ・ これらの動きが将来にわたって持続的に行われるために必要なポイント，地域コミュニティとの関わり方等について議論する。

●モデレーター：大島祥子氏（スーク創生事務所代表，地域まちづくり制度検討会議委員）

●パネリスト：

属性	備考・視点
教育・研究機関	教育・研究機関として、まちづくりにコミットする意義や関わり方についてコメントいただく。
地域密着の金融機関	地域に密着した金融機関として、まちづくりにコミットする意義や関わり方についてコメントいただく。
企業等のコミュニティづくりに取り組む事業者	ものづくりやビジネスを切り口とした新たなコミュニティの展開と、地域まちづくりとの関わり方についてコメントいただく。
まちづくり会社	まちづくり事業（イベント、人材育成、ブランディング等）を担う新たな存在としてまちづくり会社のあり方や今後期待される役割などについてコメントいただく。

テーマ2 活力を生み出すまちづくり ～事業者とのコラボによって持続可能なまちを創る～

- ・地域住民によるまちづくり組織のキーマンと、地域の環境改善や活性化等に意識を持つ事業者との議論から、地域と事業者の連携による今後の新たな展開の可能性について議論をする。

●モデレーター：嘉名光市氏（大阪市立大学，地域まちづくり制度検討会議委員）

●パネリスト：

属性	備考・視点
地域密着の不動産事業者	地域に密着した不動産事業者として、地域のまちづくりやコミュニティにコミットする経験から、事業者とのコラボにより可能となるまちづくりの展開についてコメントいただく。
地域課題解決に取り組む自治組織	地域課題解決に向けた取組における、事業者との連携の必要性や、留意点、今後の展開可能性などについてコメントいただく。
学識経験者	不動産や都市政策に精通する学識経験者として、まちづくりにおける事業者の役割と地域コミュニティとの関係性のあり方についてコメントいただく。
不動産投資コーディネート会社	不動産に対する投資という行動でまちづくりにコミットする新しい手法の可能性と効果、地域コミュニティとの関わり方についてコメントいただく。

4) 閉会挨拶(5分) 16:10～16:15

高田光雄氏（京都美術工芸大学教授，京都大学名誉教授，地域まちづくり制度検討会議*座長）

4 論点整理のイメージ

テーマ1より

- ・新たな担い手の活動が持続的に進むための条件は？（活動の場の確保、財政基盤の強化、人材の確保など）
- ・新たな担い手と地域コミュニティとの連携の仕方、自治会と新たな担い手の付き合い方。（メンバーによる地域活動への参加など）
- ・「押しつけ」でない、地域住民がメリットを感じられる（地域で認知され受け入れられる）活動とは？（メンバーの思いと地域側のメリットなど）
- ・まちづくりを発展的に進めるために必要な体制とは？（会社、NPO、任意組織等メリット・デメリットなど）

テーマ2より

- ・事業者がまちづくりの視点で事業を行う成立条件とは？（本業の中での社会貢献、地域のやる気、活用できる地域資源など）
- ・地域が事業者をパートナーとして受け入れて行く条件とは？（事業者の信頼性、地域内の合意など）
- ・地域と事業者がまちづくりに求めるものは？
- ・事業者と地域の連携によって、どのようなまちづくりが展開できるのか。
- ・地域が自走できる仕組みに何が必要か。

5 その他（全体の流れ）

